

CORAL × Collaboration

コラルポ

06
2022.2



1989年(平成元年)



2022年(令和4年)2月

コラル 30周年に 向けて

昨年2021年は三鷹コラルのビルが着工してちょうど30年でした。そして来年2023年が三鷹コラルの開業30周年となりますので、記念に三鷹コラルができる前の駅前写真を紹介しています。

上の写真は、三鷹駅を背に南側の三鷹銀座通りとその奥の三鷹中央通り方面を撮影した写真で、1989年(平成元年)のもので。上の写真の右側手前、富士銀行看板付近一帯が現在の三鷹コラルになります。

三鷹コラル情報誌『コラルポ』の思い

タイトルの「コラルポ」は、ビル名の「コラル」と英語の「コラボレーション」(Collaboration: 協力や協業、協働)を足し合わせた言葉です。

三鷹コラルは、お客様をはじめとした地域の皆さま、団体・企業と連携・協働しながら、より魅力的な店づくりに取り組むとともに、このまちの商業を活性化し、三鷹駅前をより素敵な場所へと成長させていきたいと願っています。

この『コラルポ』を起点に、地域に新しいつながりや活動を、そしてそこから生まれる笑顔を増やしていけたら幸いです。

Contents

- コラル人^{びと} 「鳥元」[4F] 佐藤 正和さん
- コラル×三鷹 まちとつながるインタビュー 「まちなか農家プロジェクト」 宇山淳子さん
- 駅前とともに歩んで 手記・三鷹の今昔 [その6 作曲家 遠藤 実]

第6回 びと コラル人

三鷹コラルには、商品へのこだわりやお客様への熱い思いを持ったスタッフが揃っています。そんな個性あふれる「コラル人（びと）」の声をお届けしていきます。第6回は4階「鳥元（とりげん）」佐藤正和店長（45歳）です。

Interview

備長炭 焼鳥 水炊き「鳥元 三鷹コラル店」
店長 佐藤 正和さん
SATO Masakazu



「また来たくなるお店」

飯田橋、品川、新橋、笹塚、上野と店舗を変わり、三鷹コラル店は2回目、9年目になります。ここは常連さんが多く、一日通しの営業なので昼間から飲まれる方や仕事終わりの消防士さんもしゃやいます。

「ご飯もお酒も楽しめてまた来たくなるお店」にしたいと思っています。旬の素材を使って、温かい料理は温かいうちに、素材を一番おいしく食べられるように心を配っています。お酒が好きな方にはお酒に合うお料理をおすすめしています。一本でも焼鳥を食べてみてください。丁寧な仕込んで炭火で焼いた自慢の味です。

毎日一回は包丁を握る

居酒屋の賑やかな雰囲気が好きで二十歳ころアルバイトを始め、料理の楽しさを知りました。今の会社に入社し、下積み、料理長を経て店長に。料理人としておいしい食べ方をお客様に伝えたいと思います。

入社後間もなく、進む道に迷っていたころ、料理長に「お前は地に足がついていない」と言われました。「料理をするために生まれてきたから諦めろ」という言葉で気持ちが悪くなり、料理人としてやっていこうと踏ん切りがつかしました。ここまで続けてこられたのはその一言があったからです。今でも必ず毎日一回は包丁を握るようにしています。店長だけでなく一料理人でありたいんです。

一人でも家族でも 気軽にどうぞ

店のアルバイトは地元の学生が多く、卒業生と一緒にパーベキューをしたりバイクに乗りに行ったりするのが楽しいですね。お客様と仲良くなって一緒に飲むこともあり、三鷹の人とのつながりは年々増えています。

ほんのり甘い厚焼き卵、
丁寧に炭火で焼いたつくねは絶品。
お酒が進む。



店内はカウンターとテーブル席、個室がある。
ぜひカウンターで熱々を食べていただきたい、
と佐藤店長。



三鷹阿波踊りのときには出店で焼鳥や生ビールを出してしまいました。コロナが収束したらまたやりたいですね。我が家の3人の子どもたちも阿波踊りのときは店に来て食事をしていきます。三鷹店は家族連れも多いんです。個室もあるので小さなお子さんがいても利用しやすいですよ。一人でも家族連れでも気軽にいらっしやってください。

4階 備長炭 焼鳥 水炊き「鳥元 三鷹コラル店」

TEL 0422-24-3323 営業時間：月～日 11:00～23:00

※上記は通常の営業時間です。新型コロナウイルス感染症対策のため、変更場合があります。



WEB サイト

コラル × 三鷹

まちとつながるインタビュー

三鷹コラルでは、商業ビルの枠をこえて、地域で活躍する人々や地域団体、他の店舗や企業との連携に取り組んでいます。この企画では、コラルが出会った「地域の魅力的な人・団体・活動」をご紹介します。今回は、「太宰治と井伏鱒二」展に合わせ青森物産展を企画するなど、三鷹コラルの賑わい作りにご協力くださっている宇山淳子さんにお話を伺いました。

まちとまち、人と人をつなぐ

瀬戸内海に面する広島県福山市に生まれ育ち、三鷹に住んで18年目です。福山市東京事務所では首都圏で福山市をPRする都市宣伝などに携わり、また、東京事務所を持つ全国の自治体の方々と出会い交流を深めることができました。退職した後は、三鷹のさまざまな地域コミュニティと積極的につながってきました。

コラルでは、2017年「太宰治と井伏鱒二」展開催の折に、「太宰治文学サロン」の学芸員様をサポートするかたちで展示のお手伝いをいたしました。太宰の師、井伏鱒二が生まれ育った福山市のふくやま文学館と連携したことで、三鷹と福山の文学的な繋がりも感じさせる展示となったのではと思います。また同時に青森物産展を企画開催し、太宰治



Vol.4

宇山 淳子さん

UYAMA Junko

広島県福山市出身。福山市役所勤務ののち、結婚を機に上京。福山市東京事務所都市宣伝などに携わり、現在は福島県いわき市東京事務所に勤務。三鷹・武蔵野のがんばる農家さんを応援する「まちなか農家プロジェクト」のメンバーとして活動するほか、三鷹緑化センター運営審議会審議委員も務める。

の生まれ故郷青森を身近に感じています。

翌年の2018年に開催された映画『この世界の片隅に』資料展では、コラルの商店主様などとともに、映画の舞台である広島県の物産展を企画、運営のサポートをしました。

「ありがとう」が「ありがたい」

同じころ、仲間が立ち上げた三鷹・武蔵野のがんばる農家さんを応援するプロジェクト「まちなか農家プロジェクト」のメンバーとしての活動も始めました。私は地域素材コーディネーターとして、地元で生産されている農畜産物や花や植木を撮影し、画像やレシピ作成などを通じてSNSで紹介したり、まちなか農家さんと他の地域の生産者の方々、そして消費者

との交流が生まれるイベント作りなどを手がけています。

「まち」も「まちなか農家さん」も、知ってもらうためには「繋ぎ伝える役割」が必要で、そのためにはお互いの理解と信頼関係を築くことが不可欠だと考えます。私は地方から出てきて心細いときにいろいろな方に助けていただきました。今の活動は恩返しでもあり、「ありがとう」といつていただくことがありがたいんです。

「ふるさと」と思える場所を増やしたい

現在福島県いわき市の東京事務所勤務しています。日々いわきの方々との嬉しい出会いとあたたかい交流をいただき、私にとっていわきは新しいふるさとになりました。いわきと三鷹それぞれのまちの魅力と応援をたくさんの方々にお届けしたいとの思いを込めて、三鷹緑化センター主催の「いわきフェア」のお手伝いをしていくところです。

ふるさととは一つではないと思っています。みなさんがふるさとだと思える場所を増やせたらいい。生活者目線で、まちを思う人たちの顔が見える活動をしていきたいですね。



「まちなか農家プロジェクト」でともに活動するメンバーとともに



2017年6月 青森物産展（「太宰治と井伏鱒二」展と共催）



2018年6月 広島物産展（映画『この世界の片隅に』資料展と共催）

駅前とともに歩んで 手記 三鷹の今昔

その6
作曲家 遠藤 実

三鷹コラル商店会の会員が、駅前に生まれ育ちその歴史とともに歩んで来られた先輩方から、手記の寄託を受けました。先輩方が先人から伝え聞きあるいは調べられた地元の歴史、実際に見聞された昭和中期以降の出来事などについて、次世代に伝えたいとの思いで70代・80代を過ぎてからまとめられた貴重なメモです。寄託を受けた会員を通して、本誌にてご紹介していきます。

駅前の裏通りに流しの遠藤実が

三鷹駅前通りの日本堂文具店すぐ裏通りに、終戦後間もなく飲み屋街が出来ました。客が10人も入ると満員になるようなカウンターだけの小さな店が道の両側に並んで居ました。その飲み屋街に作曲家の遠藤実が少年の頃、ギターを抱えて流しとして来ていました。当時流行っていた古賀政男作曲の「人生劇場」や「湯の町エレジー」「影を慕いて」などをよく歌っていました。私も歌を聞くのが好きなので、三曲100円で時々歌ってもらいました。

遠藤実の父親の仕事は廃品回収業・紙芝居・炭屋などで住居は転々としていました。家庭は、とても貧しかったので「掘って小屋の子供」と言って、いじめられたり、農家にも働きに行かせられたりもしたが給料は前金で父親に支払われた。歌が大好きだったので中古のギターを買ってギターの流しをしようと、東京の西荻窪に四畳半の部屋を借りて住んでいました。そして西荻窪や、吉祥寺、三鷹を流していました。

駅前の定食屋で妻節子と出会う

流しの前には遠藤がよく通っていた三鷹駅前通りの定食屋(きくや)では、黙って座ると、一番安いサンマのヒラキ定食が出てくるのですが、ある日、目の前にカツ丼が置かれた。「こんなの頼んでいないよ」と、「シーツ私のおごり」と指を口にあげた女性が、後に妻になる節子だった。節子は大工の家に生まれ、家計を助けるために、昼間は食堂で働き夜は飲み屋で皿洗いをしていた。やがて二人は男女の感情が生まれ、昭和25年(1950年)に結婚しました。遠藤実18歳、節子21歳だった。新居は流し仲間のアコーディオンのアコちゃんのお金井の家に転がり込んだ。家といっても野原に建てた六畳一間に台所とトイレの、バラック小屋だった。その玄関と台所の間の畳一畳分が二人の部屋となった。雨が降ると傘をさして寝た。

「高校三年生」が大ヒット

遠藤実は昭和7年(1932年)東京墨田区の生れで、戦争中親戚をたより新潟県曾根町へ疎開していたが、電気も来ていな

い掘立小屋での生活だった。家が貧しく中学校にもいけず、昭和22年(1947年)日東紡績内野工場に就職したが退職し、24年(1949年)歌手の夢を見て家族に内緒で上京し、のど自慢には何回も参加したが受からず、節子さんからプレゼントしてもらったギターで、流しをしながら歌手をあきらめて、独学で勉強し作曲家をめざしていた。

やがて昭和32年(1957年)藤島恒夫が歌った「お月さん今晚は」がヒットして世間から作曲家と認められました。作詩家丘灯至夫の作品数点の中に「赤い夕日が校舎を染めてニレの木陰に弾む声」の歌詞を読んだ途端、貧乏ゆえに中学に行けなかった自分の事が思いだされた。日東紡績で見習工をしながら通信教育用の中学校教科書を買ひ、校章に似た付録のバッチを帽子に付け悔しさを紛らわせていた日々、もし中学校、高校と進めていたらどんな青春が待っていたのだろうか、舟木一夫の「高校三年生」も、学生服で行けと遠藤の指示で、歌謡界異例の服装で歌った。1年で100万枚のヒットとなった。また世界中で歌われている千昌夫の「北国の春」などがある。その他今も心に鳴り響く名曲の数々で有名になりました。

節子の他界に一年間仕事をキャンセル

平成5年(1993年)妻節子さんが他界した時、遠藤は、ひと晩中泣いていたといい、一年間仕事をキャンセルして家から出なかったという。日記には「私は地獄を覚悟していますが、閻魔様どうぞ女房を天国の菩薩界に昇らせて下さい」と書いてあったそうです。遠藤実は平成20年(2008年)12月6日急性心筋梗塞のため76歳逝去。作曲家古賀政男につぐ戦後日本を代表する作曲家で、生涯5000曲以上の歌を作りました。戦後大衆音楽の発表に多大な功績を残したことで、政府は遠藤の死後正四位に叙し旭日重光章を授与、更に平成21年(2009年)12月国民栄誉賞を受賞しました。新潟市の金剛寺に妻節子と共に眠る。

橋本福男氏(1929年—2021年)ご寄稿

三鷹コラル営業のご案内

[営業時間] B1F-3F ショップ 10:00~21:00
4F グルメ処 11:00~23:30

※一部の店舗は除く

※上記は通常の営業時間です。新型コロナウイルス感染症対策のため、変更場合があります

[定休日] 1月1日、1月2日
4月と9月の第二木曜日

三鷹コラル公式アプリ

ご利用ください →



2022年2月28日 第6号

発行：三鷹コラル TEL 0422-41-0105

制作：BUN-SHIN 株式会社 文伸

TEL 0422-60-2211



本誌のご感想をぜひお寄せください!

✉ coral@bun-shin.co.jp (編集部)

三鷹コラル フロアのご案内

5F 三鷹市美術ギャラリー(太宰治展示室 三鷹の此の小さい家)

4F グルメ処 [飲食 3店舗]

3F 本の街

2F おしゃれ通り [服飾・雑貨 7店舗]

1F バラエティ倶楽部 [11店舗]

B1F 三鷹市場 [生鮮3品、食料品等 7店舗]

(エスベニア 2021年11月30日退店しました)

(カフェメゾン 2022年2月28日退店予定)

駐車料金サービスのご案内

三鷹コラルでは、**地下2階の駐車場**や、**タイムズさくら通り駐車場**で、以下の駐車料金サービスを行っています。店舗ご利用時には駐車券をご提示下さい。

三鷹コラル館内で1店舗でのお買い上げ、

2,000円以上のご利用で **30分 無料** 4,000円以上のご利用で **60分 無料**

1回のお買い上げで最大60分が限度となります / テナント間のレシートの合算は行いません / 当日分のレシートのみが対象となります / 3階の啓文堂書店・5階の三鷹市美術ギャラリーでは当サービスは行っていません / 4階のレストラン街においては、10,000円以上のご利用で1時間30分の無料券を発行いたします / 都合により、一部情報が変更になる場合がございますので、ご了承下さい。